

令和5年度 学力向上プラン

永水 小学校

《R5 学力向上スローガン》
分かる・できる・楽しいを実感

《R5 学力向上重点実践事項》
認知特性を理解し、個に応じた指導を行う。
～ICT機器の活用促進を目指して～

《自校の実態》

- ・ 活用問題への対応力が低い。
- ・ 知能偏差と学力偏差に大きな差が無い

《アンダーアチバー》

	3年	4年	5年	6年
R5	人	人	人	人
R4	0人	0人	1人	0人

《各種学力調査結果》

	R4		R5				
	全国	鹿児島	全国	NRT	鹿児島		
	結果	結果	目標	結果	5年結果	目標	結果
国語	71.0	57.9	60			60	
社会		66.7				60	
算数	70.0	62.5	60			60	
理科	74.0	70.0				60	
英語							

《全職員での確認日》

年度当初	4月17日(月)
1学期末	7月24日(月)
2学期末	12月25日(月)
年度末	3月14日(月)

《児童生徒質問紙》①当てはまる+②どちらかという当てはまる

	R4全国	R4	目標値	R5・4月	R5・2月
将来の夢や目標をもっている。	79.8%	75%	75%	%	%
自分には、よいところがあると思う。	79.3%	100%	75%	%	%
自分で計画を立てて勉強している。	71.1%	50%	75%	%	%

	課題解決へ向けた 重点目標	責任者	目標達成に向けた 具体的手立て	1学期			2学期			3学期		
				共通実践事項	評価	結果	共通実践事項	評価	結果	共通実践事項	評価	結果
授業力向上	① 自分の意見や考えを、根拠を明確にしてノートやロイロノートスクール等、児童が表現できる方法で表現する活動を意図的に設定することができる。 ② 校内研修で学んだことを生かし、認知特性に応じて、個に応じた指導を授業に取り入れることができる。	各担任	① 管理職だけでなく、担任相互で授業参観ができるように、管理職が積極的に補教に入り、タブレット活用促進を図る。 ② 研修で学んだことを、職員同士で共通理解したり、児童の認知特性について共有したり、担任同士の情報交換を月2回行う。	① 対話をしたり、タブレット端末を利用したりして、自分の考えをまとめる活動に1週間に1回以上取り組む。 ② ヒントカードや教材を工夫し、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の視覚化を行う。								
時間と場の設定・見届け	① 今週の1問やWEB問題、過去問、navima等を活用して取り組む機会を作る。 ② 授業運動型家庭学習やタブレットを使って、活用問題につながる実践を行う。	各担任・研修係	① パワーアップタイム、平日の課題で、今週の1問、navima等、週末の課題や持ち帰り等でWEB問題や過去問等に取り組む。 ② 授業運動型家庭学習を学期に1回以上実施し、データを積み上げる。ロイロノートを使い、過去の活用問題に取り組む。	① 発達段階に応じて、navima やドリル学習を1日1回以上取り入れる。 ② 1学期に1回以上、保護者とも連携しながら国語や算数等で家庭学習と連動した授業を行う。								
成果と課題	【分析開始 4月 19日】 ・分析担当を決め、それぞれ問題を解きながら分析を行い、7月24日に全体共有する。				成果と課題	【分析開始日 1月17日】 ・担当ごとに採点・分析を行い、18日に全体共有する。						
	活用材料			時間の確保			形態の工夫					
学力向上のための、年間を通した計画的な取組		◆ 既にある良問を活用する。 今週の1問、Webシステム評価問題、Navima、学びポケット単元テスト、定期テスト、実力テスト、ドリカムプラン 全国学力・学習状況調査過去問、鹿児島学習定着度調査過去問			◆ 時間を設定し、全員で取り組む。 授業の中で（導入、展開、終末）、朝活動、帯時間、放課後 学力向上タイム、Navima Time 家庭学習課題、週末課題、長期休業中課題			◆ 一人一人の児童生徒の実態に合わせて取り組む。 一斉指導、個別指導、習熟度別指導、少人数指導、TT指導 全員への課題、個別の課題、自主的な課題 オンライン、オフライン				